

(題名) 川崎医療短期大学における防煙・禁煙活動の推進 - 第1報調査-

川崎医療短期大学 所司 睦文 松田 信義

【緒言】川崎医療短期大学は看護科、臨床検査科、診療放射線科、医療工学科、介護福祉科、医療保育科を有し、主に医療福祉分野の技術師を養成する教育機関である。今回、本学在学中の学生を対象として、喫煙に関する現状把握と問題点の洗い出し、構内の禁煙規制の方針、防煙・禁煙教育や禁煙サポートのあり方等を調査する目的で自記式調査票を用いてアンケート調査を実施したので報告する。

【調査研究方法】在学中の学生1088名を対象とした。アンケート調査用紙は自記式無記名として本学衛生委員会が主管となり作製し、学生に直接調査の趣旨や倫理的配慮などを紙面で説明し合意を得た上で実施した。また、無記名性を確保するために学生が記入後、無作為に回収した。アンケート調査時期は2005年9月～10月であった。

【結果】〈全体の結果〉 1)有効回答率は92.3%であった。 2)学生の約10%(103名)が現在喫煙者であった。 3)医療・福祉従事者の喫煙をどう思うかは、全体の約63%の学生が良くない、約35%(355名)が喫煙する・喫煙しないは個人の自己判断で良い、約0.5%が喫煙しても良いであった。 4)施設敷地内の完全禁煙への移行については学生全体の約62%が賛成、約20%が分煙を維持継続、約17%がどちらでも良いであった。非喫煙者の約60～70%が完全禁煙に賛成であった。〈喫煙者の結果〉 5)喫煙者の喫煙開始時期は男女共に約28%が中学校、約43%が高等学校と約70%が本学入学前から喫煙していた。 6)受動喫煙の意味を知っているかは男女共に約82%の学生が知っていると答えた。 7)禁煙したことがあるかは男性喫煙者の約81%、女性喫煙者の約66%があると回答した。 8)卒業後も喫煙を継続す

るかは男女ともに約20%が喫煙を継続すると回答した。しかし、男性喫煙者の約35%、女性喫煙者の約23%がタバコをやめると回答した。〈非喫煙者(喫煙歴有)の結果〉 9)タバコをやめた理由は男女ともに健康に悪いが約45%で最も多く、次いで臭いがつくが約23%、もともと好きでないが約12%であった。 10)男女ともに約40～50%が今後喫煙することはないと回答した。わからないと回答した学生は男性が44%、女性は約60%だった。〈非喫煙者(喫煙歴無)の結果〉 11)男女ともに約90%が今後喫煙することはないと回答した。わからないと回答した学生は男性が13%、女性は約9%だった。〈タバコに関する基礎知識の結果〉 12)ニコチンは学生の約95%が有害物質と認識していたが、一酸化炭素、ダイオキシン、ヒ素の認識は極めて低かった。 13)肺癌、喉頭癌、心筋梗塞、歯周病はタバコ関連疾患と認識していたが、くも膜下出血、胃癌、膀胱癌、糖尿病についての認識は極めて低かった。 14)喫煙習慣が乳幼児の突然死の原因になる場合があることや不妊症になりやすいという認識は低かった。

【考察】今回の調査によって、現行の防煙・禁煙に関する体制では不十分であることが明らかになった。本学において防煙・禁煙に関する教育やサポートを推進し、かつ、喫煙習慣をつけさせない学習環境を提供し整備することは急務である。今後、大学敷地内全面禁煙を見据えながら防煙・禁煙に関する情報を今まで以上に積極的に提供していくことの出来る組織づくりが必要であると考えられた。

【文献】1)所司睦文,松田信義,他:川崎医療短期大学における防煙・喫煙対策への提言,川崎医療短期大学紀要26:45-52, 2006.